

問い合わせ先

第二管区海上保安本部海洋情報部

監理課長 長尾 道広

電話 022-363-0111 (内線 2510)



平成24年1月25日

第二管区海上保安本部

## 震災後の宮古港の海底の状況が明らかになりました

震災後に実施した宮古港の精密な水深測量の結果がまとまり、同港及び周辺海域の海底の状況が明らかになりました。

第二管区海上保安本部では、東日本大震災により被災した管内の港湾について、復旧・復興のための輸送路を確保するため、水深の変化や海底の障害物の状況等を把握するための測量を実施しています。

今般、昨年4月から9月にかけて、海上保安庁測量船「昭洋」(3,000トン)、「天洋」(430トン)及び第七管区海上保安本部福岡航空基地所属航空機「うみかもめ2号」により実施した宮古港における測量データの解析処理が終了し、同港及び周辺海域の海底の詳細な状況が明らかになりました。(詳細別紙参照)

震災前と比較して、変化していた主な点は以下のとおりです。

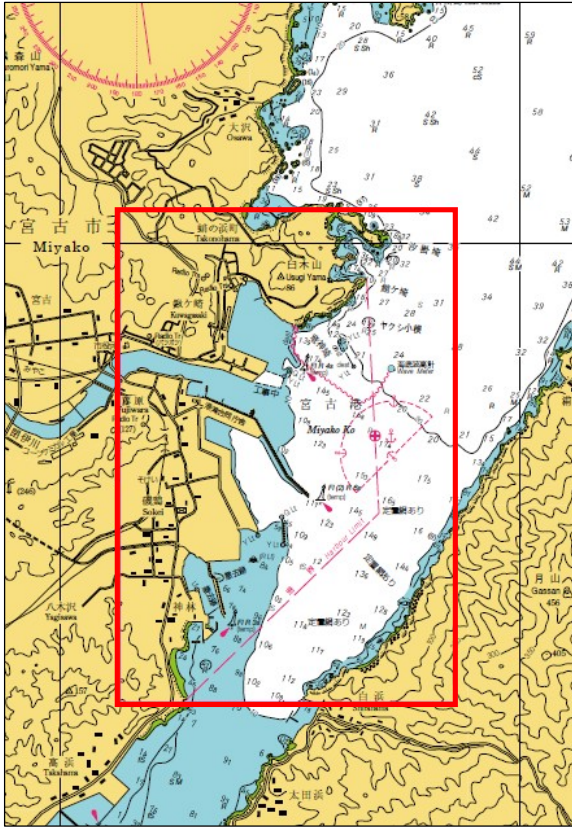
- (1) 防波堤付近の航路等が狭まった箇所においては、震災前に比べて水深が最大で約7m深くなっていることが分かりました。
- (2) 岸壁前面は、異状物等により全体的に浅くなっており、水深が最大で約4m浅くなっていました。また、港内や周辺海域の一部において、異状物が多数確認されました。

海上保安庁では、この測量結果を反映させた海図を3月中に改訂する予定です。

なお、航行の安全のため、水深が浅くなっている区域や障害となる異状物については、海図の改訂に先立ち、既に二管区水路通報<sup>※</sup>で周知を行っています。

<sup>※</sup>二管区水路通報 管内の船舶交通の安全に必要な情報をホームページで提供しています。  
ホームページ <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN2/tuho/index.html>

3月に改訂予定の宮古港の海図の  
包含区域（赤線で示した区域）



宮古港の水深測量を実施した測量船  
及び航空機



測量船昭洋



測量船天洋



航空機うみかもめ2号

